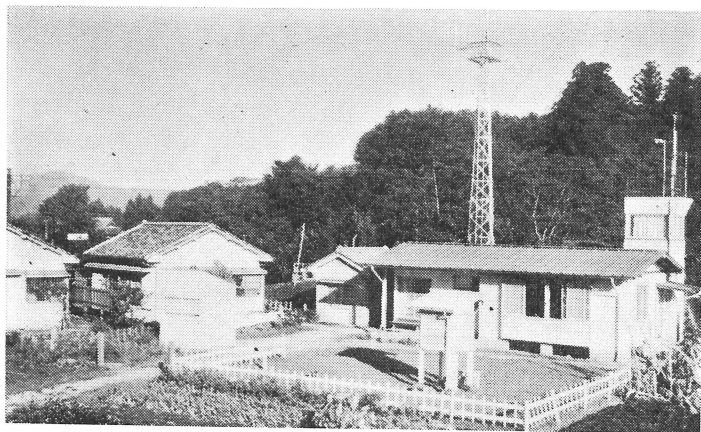


地方だより

宇都宮地方気象台大田原気象通報所



全 景

・大田原気象通報所（はじめは雨量通報所といった）がようやくにして呱呱の声をあげたのは1955年6月でありました。

とにかく3年といえ、ものの成敗の目安にされる年月でもありますので、そういう意味では、当通報所も揺籃の時代をとおろ過ぎてきたことにもなりましょうか。

当所（写真参照）は大田原市の東部にある公園（城趾）の人口付近に在ります。小さいけれども（庁舎約20坪）、田舎には珍しくしょう酒な建物です。

そのためでしょう、創立当初は何をすところかも知らずに珍しそうに尋ねて来る人もままありました。その頃の雨量通報所というのは一般にはあまりとおりのよい名称ではなかったようで、測候所とでもいえば、大いわかってくれました。

創立翌年の春でした。晩霜予報の問合せや凍容予防対策についての相談が、この辺り一帯の農家から殺到しました。

4—5里もあるところを自転車で行って来る人もあれば、夜遅くまで電話をかけて来る者もあるといった具合でした。これにはちょっと意外だったので、こちらから「ラジオの予報は聴かないのか」と問うたものでした。



那須岳無線ロボット雨量観測所

しかしこの質問は明らかに当方の認識不足でした。ラジオの予報を聴かない耕作者など1人もおりません。るす番には、おひるの予報をきいておけといい残してみんな屋外作業に出ているのでした。要するにこの場合、知らせなければならないことは、この地方の最低気温が何度まで降下するかということで、それも19時ではおそすぎるのです。それによって、果樹柵の高さにも結霜の恐れがあるか、あるいは自分の煙草畑は川べりにあるので少し位の低温ならば心配はないとか、耕作者は自ら判断していくのでした。わが家の1年間の経済が左右されるだけに真剣ですから、こちらも雨量通報所でありますからなどと、とりすましている訳にはまいりません。

現在、当所は所長、非常勤職員を含めて全部で3名でやっております。観測は1日2回（9、15時）、通報式FM 11による気象電報も同時に作っています。又那須岳、八溝山のロボット雨量観測所（写真参照）の観測も担当しています。超短波無線電話の筑波山系に加わっていますが、これによって、運営は一層能率的となってきております。天気図は1日2回（6、22時）作成で、12時だけが気象無線JMCの受信によります。

規模は小さいのですが、当所は今後localな方面で能率的な発展を期しておりますので諸賢の理解と援助をお願いします。

☆ ☆ ☆